

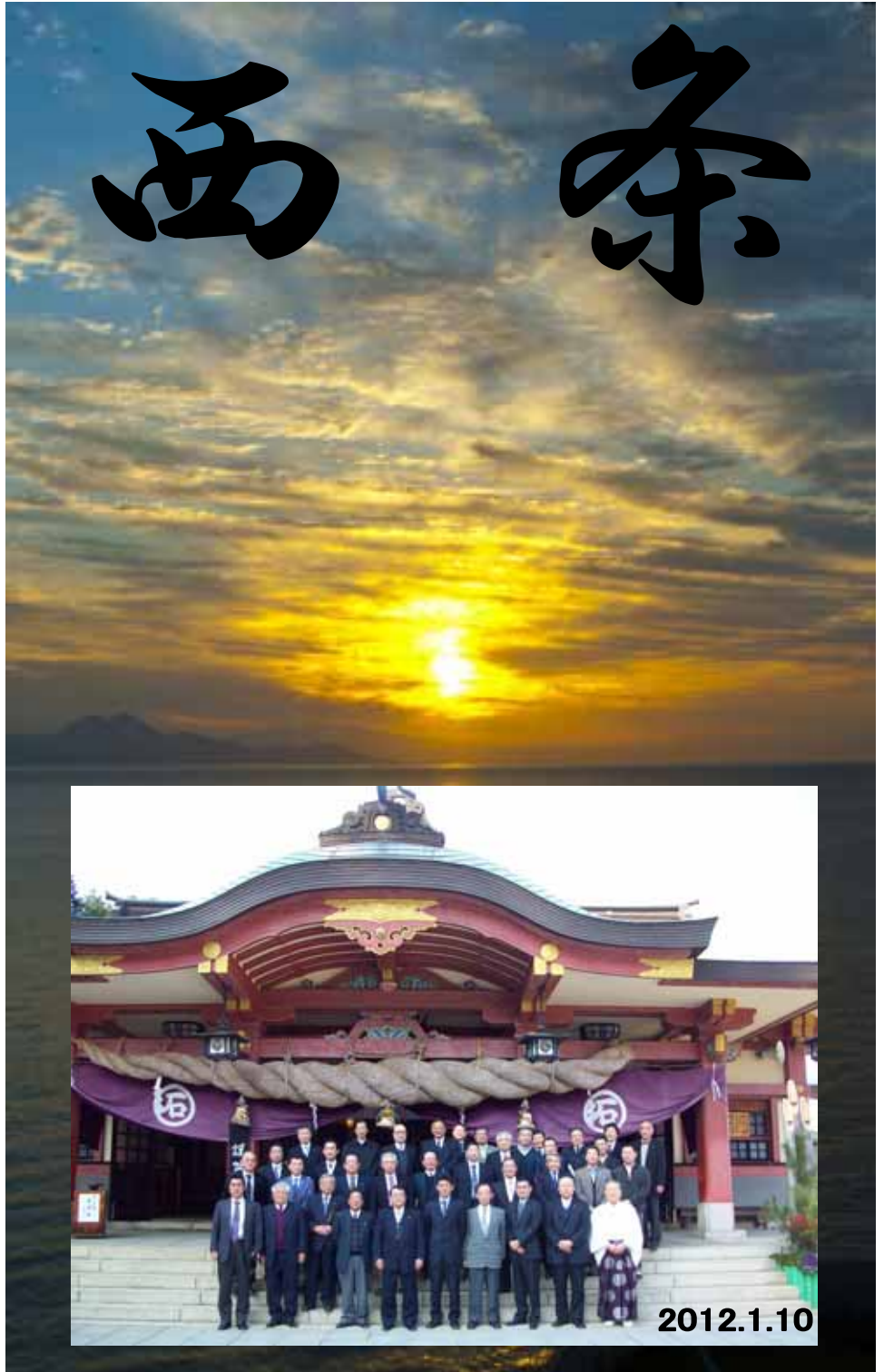


ライオンズクラブ国際協会
336 - A地区 2 R - 4 Z

2012年 **1**月号

No. 416

西条



1年のスタート“新たなる1歩”を胸に・・・

SAIJO LIONS CLUB SAIJO LIONS CLUB SAIJO LIONS CLUB

2011—2012

国際会長	ウィンクン・タム
モットー	「 WE SERVE(われわれは奉仕する) 」
ハイライト	「 I Believe ~ 信じる ~ 」
336 - A地区ガバナー	菅 武 廣
スローガン	「 豊かな 明るい未来に We Serve 」
キーワード	「 愛 」
336 - A地区2RC	田 村 征 夫
キーワード	「 本物志向 」で
西条ライオンズクラブ会長	明 比 紳 一 郎
スローガン	「 はばたけ 未来へ 感謝を込めて WE SERVE 」
キーワード	「 新たなる一歩 」



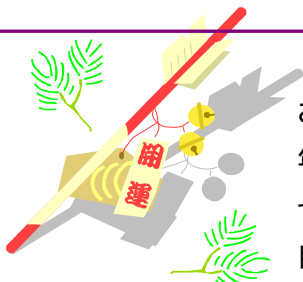
新年明けましておめでとうございます。

昨年は多岐にわたり御支援と御協力を賜り、執行部を代表しまして改めて御礼申し上げます。さて、昨年は国内外において自然、経済、政治、あらゆる方面から見て波乱の年であった様に思われます。本年は心より新生の年になってほしいと思います。西条ライオンズクラブは本年度、設立51年度を迎え、“新たな1歩”を踏み出そうとしています。事務所移転に始まった今年度は皆さんの御協力の基、順調に半期が過ぎ去りました。後半においてもクラブにとって大切な事業が数多くあります。是非、今まで以上ウィサーブの精神の基、“ライオンと呼ばれる人”の文面の中にある「・・・友の美点をつねに見守り、自らの良きところをまた友に贈る・・・」この言葉を忘れずに、メンバー、一丸となって楽しく感謝を込めて未来にはばたける事を願っています。



喜寿を迎えて

加藤 誠也



昭和11年1月9日生

お陰さまで私も今年1月で満76歳になり、喜寿の年齢に達しました。辞書を引くと「喜の草体」喜は七十七に見える所から77歳の祝いと言われるそうです。自分で言うのも何ですが見た目以上に足腰も丈夫でと

ても喜寿を迎えたとは実感していないのが本当のところですが、これからも若い者には負けないように気持ちだけはしっかり持ち、皆さんと接して参りたいと思っておりますので今後共おつきあいの程どうぞ宜しくお願い申し上げます。



喜寿雑感

加藤 茂

昭和11年8月12日生

月日がたつのは早いものだ。ついこのあいだ、古稀を祝ってもらったばかりなのに、はや今年が喜寿だという。この分では傘寿もすぐに迎えそうだ。あるいはもっと長生きするかもしれない。祝ってもらうのは嬉しいが、長生きすることが本当にめでたいのであろうか。日本人の平均寿命はいくらでも延びそうであるが、このまま行けばいわゆる少子高齢化の度合いがますます進んで老人大国になってしまうだろう。今でさえ年金制度が破綻するとか健康保険制度が維持できないとか騒いでいるのに、このまま高齢化が進んだら消費税を上げたくらいでは到底追いつかないだろうし、若い世代はばからしくて働く意欲を失ってしまうのではなかろうか。この先日本はどうなるのだろうか。そんなことを思うと長寿万歳とばかりは言ってもらえない。長生きするのもいいかげんにしろと言われかねない。孔子は「40(才)にして惑わず」と宣ったそうだが凡夫は77にして惑うことばかりである。



古稀を迎えて

曾我 健

昭和18年1月26日生

私は、昭和18年1月26日の生まれです。これまで、1年前倒して42のお祝い(厄年)、61のお祝い(還暦)と私の同級生達と神社に詣っております。と、いうわけで、古稀も昨年、すでに厄払いをすませてしまっておりましたので、自分が古稀だと言われても、すっかり忘れておりました。しかしながら、新年、第一例会、石鎚神社の本殿大広間にてお正月早々お祓いをしていただき、新鮮な気持ちになりました。いつまでも少年の様な気持ちを忘れず、若さを保って、がんばっていきたいと思います。



昭和18年2月23日生

霊験あらたかな石鎚神社での輝かしい新春の第一例会に「古稀の祝い」のお招きをいただき、神事に参加させて下さいましたことを心よりお礼申し上げます。学生の頃、古稀で70歳と言えば相当の年寄りだと感じたものですが、自分がいざその年になってみても、精神的には未だ50歳代のような気がしてなりません。本当に不思議なものです。気持ちだけは、いつまでも若くありたいという願望でしょうか。



50歳代といえはクラブの皆さんと現役で活動した頃であり、その頃の経験が、今の自分の活力に繋がっているのだと感謝いたしております。スリランカへ自転車等の物資を送ったこと、加藤茂委員長の下、餅つき奉仕を始めたこと等、私にとっては忘れられない事ばかりです。

最近さすがに当時ほどの体力はありませんが、古稀を節目にこれからはまず、健康第一に、心はいつまでも若く、心身ともに健全な老生でありたいと願っています。ありがとうございました。



被災地訪問にて得られた還暦からの人生

徳増達史

昭和27年11月10日生



昨年12月初旬、50周年記念事業で収受した義援金を携えて、相馬の地を訪問致しました。初日は相馬ライオンズクラブ針ヶ谷会長、草野幹事、福山事業委員長の仲立ちで市庁舎に立谷市長を訪ね、義援金で電気毛布を購入して寄贈することが出来ました。相馬市も南北の両端の住宅地が被災し甚大な被害を被り、市長を先頭に復興への端初に到達したところでした。

西条にいるときは、ライオンズクラブ同士の交流の中で、相馬ライオンズクラブが復興への事業展開を行うのであれば、継続的支援の道筋を探ろうなどと考えたりしていましたが、実際に被災地を訪問してみると、一クラブが事業展開として復興支援を行うなどと言う悠長な状況ではなく、市全体で取り組むにも行き着く先すら判らない中、市民の命を守りながら、生活の復興を第一に奮闘している行政関係者やライオンズクラブのメンバー達の姿を見るにつけ、復興への道程の困難さを思い知るばかりで、簡単に支援などと考えていた私の認識の甘さを痛感させられるとともに、被災地にとって義援金は額の多い少ない関係なく、必要なのだと解りました。

さらに翌日は車で東松島から石巻まで被災地を視てまわりましたが、土台の頑丈な家屋は建っているのですが、1階は空洞で震災後9ヶ月を過ぎようというのに捨て置かれたままであり、その周辺の建物は姿すらなく、押し流されたと推測できる住宅街があてどもなく続いている光景は悲惨などという言葉を通り越して茫然自失となりました。

大震災の爪あとを覗き、「普通に暮らせている事のありがたさ」を実感できました。還暦の年を迎え、普通にある幸せな世の中を次世代に繋いでいく役割が私に課せられた使命であり、微弱ながらこの使命を果たすべく、残りの人生を掛けたいと思う今日この頃です。

日本の目指すべき方向性が私のなかで確立できれば、もう少し具体的な行動指針も生じて来るのでしょうか、確立にはもう少し時間と勉強が必要のようです。



還暦をむかえて

寺川治美

昭和27年11月15日生

今年還暦を迎える事になり、今まであらためて振り返って見なかった、私の生まれ年「昭和27年」と言う年がどの様な年であったのか調べてみました。

終戦後7年とまだまだ日本国が戦後の復興途中と言う混沌とした時代だった様です。日本と西ドイツが国交樹立とか、日本国とアメリカ合衆国が安全保障条約発効、日華平和条約締結、GHQ廃止と言う戦後が残っている時代でした。

私自身も両親が一生懸命働いても、映画の「ALWAYS・三丁目の夕日」の様な時代



で、物の無い裕福とは言えなかったが、決して悲壮感などは無かったと思います。

昨年3月11日に大変な東日本大震災が発生し、多くの方々が犠牲になりましたが、昭和27年も十勝沖地震が発生し津波などで多くの死者や行方不明者を出し、多くの家屋流出が発生しました。又この時代も早や核の問題が有り、イギリスが原爆実験を実施しアメリカ・ソ連に続く第3の核保有国となり、アメリカが水爆実験を行なうなど核が平和利用ではなく東西冷戦の抑止的兵器の存在の時代だった様です。スポーツでは第15回ヘルシンキ・オリンピック大会に日本代表として75人が戦後初参加し、ボクシングでは白井義男が世界フライ級チャンピオンに日本人で初めてなり、少しずつ国際舞台に参加した時代です。政治では各地で抗議のストライキが有り流血事件も有ったようです。当時の総理大臣は吉田 茂で後に総理大臣になる池田勇人は通産大臣でした。この頃は歴史に残る総理大臣ですが平成の総理大臣は名前を憶えることすら出来ないほど、ころころ変わって大変です。この頃はラジオ放送が全盛でラジオドラマ「君の名は」が放送開始し銭湯が空っぽになったと言う話も有るそうです。又流行歌では江利チエミの「テネシーワルツ」美空ひばりの「リンゴ追分」などが流行っていた様です。今はAKB48ですが一人一人の名前は解りません。

この様な時代に生まれアット！言う間に60年が来て還暦を迎えようとしています。

60年間、無事に健康で歩んでこられた事に感謝し、今まで多くの方に助けて頂いたこと、又多くの良き出会い(妻も含めて?)に感謝したいと思います。

まだまだ還暦ぐらいで老いを感じず元気に何事もほどほどに、ゆっくり歩んで行きたいと思いません。皆様これからも宜しくお願い致します。



年男の所感・その使命に思うこと

十 亀 興 美

昭和15年1月24日生

七回目の辰年・馬齢を重ね、今一番うれしい事は三人の息子達が良き伴侶を得て、夫々2人ずつの孫に恵まれ先祖のいのちを伝えてくれていることに感謝であります。

その孫達がたのもしく成長することを願い、私たち爺・婆の役割は先祖の心、つまり私達の生きた知恵や心を伝えることと思ひ、息子達夫婦の邪魔にならぬ程度に、子育て援助に係わりあっていくことが、私達の生き甲斐ともなって、その成長を楽しみにしております。

世の中、核家族化が進む中で、老人達の孤独死や育児のトラブルで、子供達の痛ましい虐待死、そして家族崩壊の進む悲しい現実の暗いニュースを聞くにつけ、折角この世に生を享けた使命が、人間のエゴで滅びゆく様は、自然の摂理に適っていないと思え、残念至極であります。

祖父母・父母・子供達の三世代が同居するか、味噌汁の冷めない距離で生活することが理想ではありますが、爺・婆と孫の交流が如何に大切か、今の世の中、鏡に写すが如しであります。

更に願わくば、子供達がたくましく、たのもしく育っていくために、自然の大切さを学び、家族の絆を深めるために、故郷の山、霊峰石鎚山に登られ、自然の雄大さ、雄々しさや、素晴らしい森林浴は霊気となって命蘇るものをいただいて自己の確立を図り、世のため人のための公に尽くす心を養っていただくべく務めてまいりたいと念願しております。



年男の抱負

新 田 公 洋

昭和39年5月6日生

新しい年を迎え、「年男の抱負」というお話を頂いた時に自分自身がもう48歳なのかと年月の速さにビックリしました。今回のような機会に改めて、今後の自分自身の方向性を見直す事が出来ました。

まず何よりも健康第一ですが、この西条市で商売をさせて頂き1年が経過しましたので更なる発展をと考えております。地域に根付き、地域の皆様から愛されるお店作りを目指して参ります。そのためにもライオンズを通しボランティア活動などを率先して行い、社会貢献ができる人間になりたいと思っております。ライオンズの活動にしましては入会させて頂いてからまだ1年未満で何もお役に立てていない状況ですので今年は地域に貢献していけるよう積極的に頑張りたいと思います。

2012年は龍のごとく、上を目指し成長していける年にしたいと思います。今年もよろしくお願ひ致します。



昭和46年7月17日生



本厄を迎えまして厄払いをしてもらいました。厄年というのは、医学的にも体の変調をきたしやすい時期と言われていますが、私の場合には、前厄の前年末に10日間ほど手術を伴う入院をしました。



突然のことだったので自身の事ながら大変驚きましたが、心身（手術は切除術・・・）ともに厄払いができた様で、昨年は待望の女の子が元気に生まれるなどファミリーとしては良いことが続き、忘れられない一年となりました。

例年、大体は趣味で小さな目標をたてておりますが、今年は人生の節目ということで家族と仕事の今後についてなどいろいろと考えました。大きな目標は心の中にしまっておきますが、70歳まで現役で働きたいのでこれまで以上に健康に留意し、目標に向け一歩一歩着実な歩を進めたいと思います。

【 2R 親善スポーツ大会に参加して 】

スポーツ委員会 野間賢次郎

1月21日、西条ひうち体育館に於いて行われた2R親善スポーツ大会に、昨年度優勝チームとして、我が西条ライオンズクラブは昨年度同様A、B2チームが参加した。Aチームは元陸上部で運動能力抜群の土居Lキャプテンを中心に、羨ましいほど仲の良い伊藤夫妻、そしてアラ60の大先輩方を加え、ケガをしないよう適度な運動を目的として結成、Bチームは元バトミントン部のポイントゲッター安藤キャプテンを中心に、平均身長175cmは超えようかという男性メンバーと、自身もレクバレーチームに所属し、二日と空けずにレクバレーの練習を行い、グイグイと男性陣を引っ張る第2のキャプテン益田事務局員、原夫人を加え2連覇を意識した布陣で結成された。

5～6チームの中で2チームが勝ち残れる予選リーグでは、Aチームは数々の珍プレー、好プレーを演出しながらも、1勝1敗という成績を残し、得失点差で決勝トーナメント進出を2年連続で果たし勝負強さを発揮した。またBチームも危なげなく2勝し決勝トーナメント進出を果たした。

8チームで行われた決勝トーナメントではまず、Bチームが土居ライオンズクラブと対戦、1セットを奪われ2セット目も中盤5点差としながらも、土居の昨年度の雪辱に燃える執念に圧倒され、逆転を許しまさかの惜敗となった。続くAチームも目の前での同志の敗戦の影響からか惜敗した。

結果2チームとも準々決勝敗退という結果に終わったが、近藤Lの羽織袴での応援を始め、2チームの選手団、また選手以外に応援に来て下さった応援団の方々を含め、大会への参加者の多さは西条ライオンズクラブここにありという存在感をアピールできたと思う。

夜は恒例の「大将」での反省会となり、これも恒例の気持ちがいままで続くかわからないが、来年度、王座奪還への誓いを皆で確認しながらの散会となった。



返還したまま戻って来なかった優勝旗を手に記念撮影・・・



環境保全・保健福祉委員長 高木和幸



財団法人 麻薬・覚せい剤乱用防止センター

明日から椿まつりという1月28日(土)に伊予市「ウェルピア伊予」にて上記の講座が開催され、当クラブより明比会長、寺川テーマと受講してまいりました。

会場は110名を超える受講者と講師、地区役員の熱気で睡魔が襲う余地などない状態でした。

(そうだったですね 寺川テーマ・・・)

4時間弱の講座では薬物の危険性など医学知識や、薬物犯罪の現状分析から、行政や教育での取り組み報告など内容の濃い研修となりました。他の研修と異なっていたのは、最後に認定講師として学校へ出向く事の研修があった事です。1日の研修で十分な講師が出来るとは思いませんが、薬物犯罪の蔓延を防ぎ安心して生活できる社会を次の世代に残すため微力を尽くしたいと思います。



編集後記

昨年を振り返りますと、東日本大震災を始めとする災害続きの1年だったと思います。私にとって人と人との絆の大切さ、家族が揃って普通に日常生活を送れることのありがたさ等、震災を通して痛感させられた1年でした。どうしても感謝の心というものは時間がたつにつれて薄らいでゆくものです。日頃、目の前にある当たり前になっている恩恵について震災を通して再認識させてもらえたような気がします。今年の西条ライオンズクラブの会長スローガン「はばたけ 未来へ 感謝をこめて WE SERVE」にもありますように、人や物や自然、周囲の環境すべてに対して常に感謝の心を抱いて行動したいものです。

PR・広報委員 今岡正士

発行所 ライオンズクラブ国際協会 336A地区 2R 4Z
西条ライオンズクラブ
事務局 〒793-0030
西条市大町 771 番 1
西条国際ホテル内 1F ← 移転しました
TEL (0897) 56-3980
FAX (0897) 56-9251
E-mail saijo-lc@abeam.ocn.ne.jp

発行者 会長 明比紳一郎
幹事 植木光夫
PR・広報委員長 土居恵三
編集委員 今岡正士 ・ 明比昭治
仁後真貴雄 ・ 盛實正人
小野雅志
瀬川大秀 ・ 伊藤隆治
例会日 第2・第4火曜日
例会場 西条国際ホテル
印刷 西条ライオンズクラブ事務局